

基本政策 1 良好な住環境のもとで生活ができる

【基本政策の方向性】

市民一人ひとりが良好な住環境のもとで、安全安心かつ快適な生活ができていると実感できる“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「住環境の向上」

住まいに関する課題の改善が図られ、住みやすさが向上するとともに、市民が日常生活を送る上で、住み続けたいと感じることができるよう住環境の向上を目指します。

【数値目標】	現状値	目標値
「住み続けたい」の満足度（市民意識調査）	77.4%（H30）	⇒ 83.1%（R7）

基本施策

1-1 空家対策

放置されている空家が及ぼす様々な影響は、地域における今後の重要な課題となることが予想されるため、市民の生活環境の保全と安全安心なまちづくりに向け、「発生抑制」、「流通・利活用」、「適正管理」の観点から、空家対策を総合的かつ計画的に推進します。

【KPI】	現状値	目標値
その他の空家(※)件数（住宅・土地統計調査） ※住宅・土地統計調査における空家のうち、賃貸・売却用、別荘等を除いたもの	2,073 戸（R7） （将来予測値）	⇒ 1,970 戸（R7） （将来予測値から 5%減少させる）

【主な取組】 空家の発生抑制

空家に関する相談体制を充実させるとともに、空家の発生抑制に向けた周知啓発、空家の実態把握やデータベース管理を行い、空家の発生抑制に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
空家データベース登録件数	600 件（H30）	⇒ 858 件（R7）

1 - 2 空き地対策

適正に管理されていない空き地や活用されていない空き地、全国的に問題となっている所有者不明土地の適正管理や有効活用を図るなど、空き地対策を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
空き地に係る苦情相談件数	11 件/年 (R1) ⇒	4 件/年 (R7)

【主な取組】 空き地の流通・利活用

空き地の流通・利活用に係る相談体制や空き地バンク制度を整備するとともに、空き地の寄附受入れ制度や所有者不明土地の実態把握と活用に向けた研究を進めます。

【KSF】	現状値	目標値
空き地所有者からの相談件数	0 件 (R2) ⇒	1 件以上/年 (R7)

1 - 3 住まいに関する支援

各世帯の状況や希望に応じた住まいの実現のため、居住支援や住宅取得等に係る支援など、住まいに関する支援を推進します。

【KPI】	現状値	目標値
“住みやすさ”の市民満足度（市民意識調査）	52.9% (H30) ⇒	55.0% (R7)

【主な取組】 住宅確保要配慮者¹の支援

埼玉県住まい安心支援ネットワークへの参画を通して、最新の居住支援情報の周知やセーフティネット住宅の登録促進に取り組むとともに、住宅確保要配慮者が安心して居住できるための支援策の研究を進めます。

【KSF】	現状値	目標値
あんしん賃貸住まいサポート店※の斡旋件数 ※高齢者世帯、障がい者世帯、外国人世帯、子育て世帯 などの住まい探しを支援する不動産仲介業者	－ (R1) ⇒	向上 (R7)

¹ 低額所得者、被災者、高齢者、障害者、子育て世帯など、住宅の確保に特に配慮を必要とする市民

1-4 良好な住環境の形成

災害に強いまちづくりを基本とした計画的な市街地整備を推進し、地域の特性に応じた景観形成等を行うことで、ゆとりと潤いのある良好な住環境の形成を目指します。

【KPI】	現状値		目標値
"住みやすさ"の市民満足度（市民意識調査）	52.9%（H30）	⇒	55.0%（R7）

【主な取組】 計画的な市街地整備の推進

土地区画整理事業により、良好な住環境と災害に強い安全安心な市街地整備に取り組みます。

【KSF】	現状値		目標値
土地区画整理事業の完了	0 地区（R1）	⇒	3 地区（R7）

関連する SDG s ゴール



ハード・ソフト両面からすべての市民にとって良好な住環境の整備を推進し、適切で安全かつ持続可能な地域の実現を目指します。 関連ターゲット（11-1、11-3）



民間事業者や地域住民の専門性・経験・知識等を積極的に活用し、効果的な事業の実施に努めるなど、官民等のパートナーシップを推進します。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

富士見市空家等対策計画 （平成 30 年度～令和 4 年度）

富士見市都市計画マスタープラン（令和 3 年度～令和 22 年度）

関連部署

自治振興部 環境課

まちづくり推進部 まちづくり推進課

建設部 建築指導課

